

2024 年度 妻ヶ丘幼稚園 1 学期園内自己評価

ひよこ組

— 年間目標 —

- ◎ 保育者の語りかけや関わりによって信頼関係を築き、食事や排泄、、衣類の着脱など、身の回りのことに関心を持つ
- ◎ 保育者に見守られる中で、自分のしてほしいことを言葉やしぐさで伝えようとする

— 1学期の目標 —

- ◎ お祈りをしたり、讃美歌をうたい、心地よさを感じる
- ◎ 保育者に受け止めてもらいながら、新しい環境の中で安定して過ごす

— 活動内容 —

できるよできるよ ✨

(健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え)

- ・戸外で行く際の身支度(防止、靴下、靴の着脱)に興味を持っている。
- ・名前を呼ぶと手を挙げて返事をしたり、手を合わせてお祈りをすることができるようになってきた。
- ・保育者の声掛けを聞き、片付け始める姿が見られ、真似をして他の子どもたちも取り組むようになってきた。
- ・玩具の取り合いになることもあるが、貸してと手を出したり、自分から渡す姿が見られる。
- ・手遊びや歌に興味を持ち、歌ったり踊ったり、保育者の真似をしながら楽しんでた。



たのしいこと いっぱい!

(健康な心と体、自立心、共同性、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)

- ・楽器あそびをすると、気になる楽器に手を伸ばして自分なりに使い方をを試しながら楽しんでた。
- ・砂場では砂をつかんでパラパラ落ちるのを見て楽しんだり、型の中に砂を入れて楽しむ。年少の子どもたちに世話をしてもらいながらまもとも発展していった。
- ・戸外へ出るとうさぎのぬくちゃんに挨拶をする子どももよく見られた。小さな草を指で挟みえさをあげて、食べる様子を観察していた。
- ・製作活動に意欲的で、保育者と1対1で取り組む。絵の具を手や足に付けて感触を楽しんだり、絵画製作や粘土遊びにも夢中になって遊び、楽しい表情を保育者に見せていた。



— 1学期の反省 —

- ・体調を考慮し、室内で過ごす日が多かったが、遊びがマンネリ化してしまっていた。
- ・4月から少しずつ園児が増えてきていたが、在園児も含め、安定して園生活を過ごせるようになっていった。
- ・1学期後半にかけて言葉がよく出るようになり、個人差はあるが、成長を感じた。
- ・自我が芽生え、こだわりが見られたり、高月齢の子どもにはイヤイヤ期のような姿も見られた。

— 2学期の目標 —

- ◎ 保育者に助けられながら、身の回りのことに興味を持つ
- ◎ 簡単なルールや約束事が理解できるようになる